登録番号 49 —②

I 本丸ボタニカルガーデン

福井の植生ショーケース

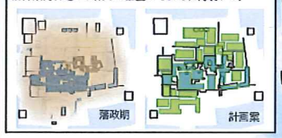
県庁移転後の本丸内に，福井県の植生のショーケースのような現代的な庭園によって新たな県都の顔をつくる．園内は，歴史の道の一部で両北の堀をつなぐ園路が貫き，さらにそこから山里口御門及び石垣の登り口へと導く園路が延びる．来園者は，園路を通って様々な植生を横断していく．また，石垣の上を歩いて巡れるようにして，地上レベルで横断する視点とは異なる視点で庭園を眺められるようにする．県庁の地下駐車場跡には地下シアターをつくり，文化活動の発表の場とする．

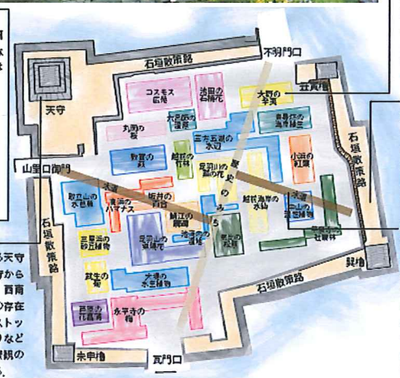
植生

各植生ブロックにはアジサイや松，スイセンなど福井市の代表的な植物種をはじめとして，三里浜や大規など県内各地の多様な植生を可能な範囲で象徴的に表現する．

本丸御殿の継承

本丸内にバッチワーク状に配された植生ブロックは，福井城本丸御殿の平面を手がかりに構成され，屋根の造なりを映したランドスケープを創出する．各ブロックには福井県内各地から集めた植生をそれぞれ円複する．





石垣の利用

現在，一部分のみ開放されている石垣の上を，全周歩いて回れるようにする．本丸の内側と外側両方向への見晴らしの良い，新しい視点場をつくりだす．

園路

両北の園路は歴史の道のテクスチャをつなげる石張りデッキ，そこから枝分かれして山里口御門や石垣の登り口へと導く園路は木デッキとする．半木半石の雰囲であったかつての九十九橋に倣った構成にもなっている．

地下シアター

県庁および県警本部を除却した後に残る３層分の地下空間の選構を活かして地下シアターにリノベーションする．福井の文化活動の発表の場となる．エントランスだけが地上庭園内に出てくる．

遺構の復元

城下町福井の歴史を象徴する天守と三つの櫓を復元する．天守からは足羽山の眺望をもたらし，百雨の赤申櫓は駅前からも城址の存在を感じることができるアイストップになる．フェニックス通りなどまちなかから，城址らしい景観の眺望を確保することができる．

II 南二の丸グリーン・ネックレス

屋内外を貫通する緑の通路

敷地両西の業務エリアでは，一定規模以上の公共建築物や民間建築物を建て替える際のルールを設ける．１階部分にアトリウムや屋内貫通通路といった屋内公開空地及び公共用通路などの公共的な屋内空間を設け，通り抜けができるようにすること．そして，それらの屋内を貫通する空間同士をつなぐ緑の屋根を設けること．最終的には，シビックホールを起点に，天候に左右されずに屋内外を貫通する緑の通路を張り巡らせるかたちを目指す．降水量の多い地域でも快適に歩きなかを月遊でき，容積率の緩和によりゆったりとした執務空間を実現する．

緑の屋根

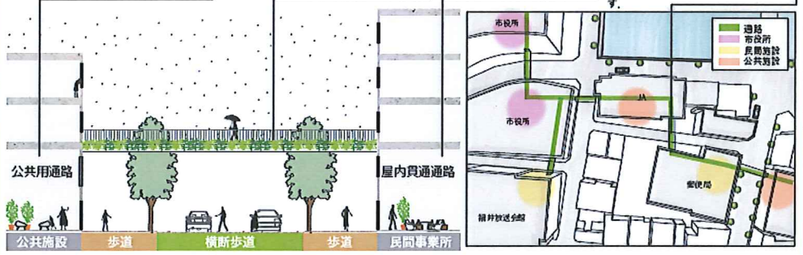
公共的な屋内空間同士をつなぎ合わせる緑の屋根は３パターンある．緑化したブリッジを渡し緑秋の屋根として機能させる屋外通路，地上レベルで屋内通路でつなげ（通路を誤まない場合）屋内を積極的に緑化する地上連絡温室，上空レベルの屋内通路でつなげ積極的に緑化する空中連絡温室である．併せて，公共的な屋内空間においても積極的な緑化を狙いする．これらにより，「城址公園都市」内ならではの潤いのある業務エリアを目指す．

公共用通路

公共施設は建て替えの際，１階に公共用アトリウムや公共用通路を設ける．公共施設を日常の動線に取り入れることにより，公共施設をより身近な存在として感じ，利用することができる．

空中歩廊

屋根下は降雨・降雪時にも天候に左右されない快適な歩行空間が確保される．屋根上はオフィスで働く人がハーブ・や草花を育て，緑溢れる城址公園一郎として，緑の空間を形成する．



III 東三の丸ヴィレッジ

快適でサステイナブルな住宅地

各住宅の建て替えの際に，散在する駐車場を集約しながら共有の広場（コミュニティ・スクエア）や駐車場（コミュニティ・パーキング）を設け，交通空間優勢の街区から生活と憩いの空間優勢の街区へと緩やかにシフトしていく．また，環境調整装置としてのバックガーデン，本丸へのヴィスタを強調するフロントガーデン，城址の構造を顕在化させる堀り跡の小道などの線的な要素を積極的に組み込み，歩いて楽しい住宅地を目指す．

バックガーデン

街区中心の住宅が背中合わせになっている部分に緑状のバックガーデン（共有裏庭）を設け，ガラスの屋根をかけて，住宅の環境調整装置とする．バックガーデンは，コミュニティ・パーキングから住宅まで雨や雪に濡れないで移動できる動線としても機能する．夏はガラス屋根にスクリーンを張り，天窓から自然換気を促し，打ち水による冷却効果を狙う．冬は，生活排水の熱利用と室内の廃熱利用により快適な中間領域を作り出す．またバックガーデンを共有することで，新たなコミュニティを創出する．

フロントガーデン

住宅エリアの中心となる本丸に向かう東西方向の通りでは，建て替えの際に壁面を一定程度セットバックするルールを設け，前面を緑化して，一定幅の緑地を設ける．城に向かう堅町の町割を強調する象徴的な街路，住宅地の質を高める緑あふれる豊かな街路を作り出す．

コミュニティ・パーキング

散在する駐車場を街区ごとに集約し，共有の駐車場とする．ここでは，既設アスファルトを部分的に撤去して緑化することで，エリア全体に小さな緑を増やす．少なくとも各戸１台分の駐車スペースを確保できる面積で設定する．将来的には，コミュニティ・パーキングでのカーシェアリング制度導入や電気自転車の充電スタンド設置を推進する．

コミュニティ・スクエア

現在駐車場に使われている空き地の一部をコミュニティ・スクエアとし，近隣の住人たちの話し合いで使い方を決めていく．子どもたちが安心して遊べるプレイパーク，バーベキューができる広場，共同菜園，ドッグランなど，住人の希望に添った場所になるだろう．また，世代交代に対してフレキシブルに変化していく空間とする．

堀跡の小道

かつて福井城址に張り巡らされた跡をなぞるように，住宅地の中を通り抜けていく小道を設ける．区画整理で作られた福井のまちは路地的な空間がほとんどないが，この堀跡の小道は，歴史を辿りつつ地区を楽しむ，路地のようなヒューマンスケールな小道となる．

A 堀端のフリンジ公園

堀の環境を取り込む環状の公園

現在，市の公園となっている堀の周囲を，それぞれの場所に応じてより積極的に公園として活かしていく．

堀端フットパスと貸し原っぱ

堀の北東側の堀端の細い道に接する住宅では敷地境界からセットバックした位置に生け垣を設け，その間を緑化することで，視覚的に幅員を広げた堀端フットパスを創出する．堀端フットパスに囲した現在の駐車場を「貸し原っぱ」として，イベント利用，移動式カフェ，小さなフリーマーケットなど，堀端景観から駐車場を排し，賑わいを添える空間にする．

船着き場

堀の北側からボートに乗船して，堀を周遊できるようにする．北側の堀の下はくぐり抜けられるようにする．見るだけの堀ではなく使える堀空間とし，観光客も地域住民も楽しむことができる．

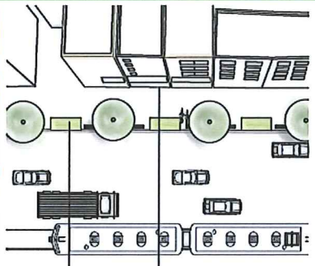
堀床

中央公園に囲する堀端にデッキを設け，休憩したり花見を楽しむことのできる堀床とする．復元した天守を眺める絶好の場所になり，歴史性と現代生活の接点となる．

道路空間の再配分

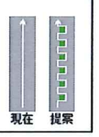
堀の南及び両東側では，道路空間の再配分をして，車道を減らし一方通行とし，自転車専用レーンを設け，歩道を拡幅する．歩道には，ところどころにベンチを設置して，ゆったりと堀端を楽しむことのできる歩道を創出する．

B フェニックス通りの鯨



フェニックス通り再生のシステム

フェニックス通りは，戦災・震災復興の歴史を記録し，都市に骨格を与える循幹を象徴する大通りであるが，現在は交通機能が主で，人の姿はあまり見られない．そこで，フェニックス通り沿いに，人が一時的に留まる小さな「鯨」を育せていく．



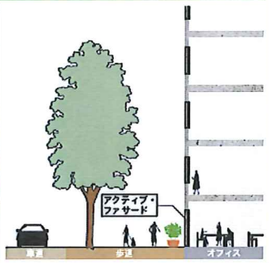
大通りに鯨を寄せる

大通りの街路樹の間に一坪緑地を配置する．また，街路樹の足下にはベンチやプランターなどを設置することで，歩行者や沿道建物で就労している人たちが休憩できる場所とする．

既存店舗やオフィス

象によって生まれる人の流れは既存店舗の活性化につながる．また，オフィスの場合は屋外に心地よい休憩場所を得ることが出来る．これはフェニックス通りに人が滞留するきっかけとなる．

C 中央大通りのアクティブ・ファサード



中央大通り沿いには，築 30 年以上の建物が多く，間もなく建て替えの時期を迎える．その際に，１階部分のファサードをガラスにする．

まちなかで働くライブ感

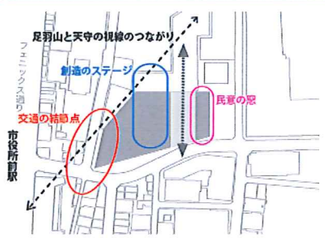
業務系のビルが建ち並ぶ中央大通り北側は，商業系低勢の商側に比べて，人の活動がまちなかに顕在化されにくい．そこで，通りに囲した建物の１階部分をガラス張りにし，１階部分を執務空間や会議室として積極的に活用することを誓期する．この活動の見えるアクティブ・ファサードと歩道の間には植栽やベンチを置いてバッファとする．このことによって，歩行者にとっては都市の活動が見えて活気ある街路となり，就業者はまちなかで働くライブ感と適度な緊張感を持て，企業にとってはある種のブランディングのチャンスを与える街路となっていく．

D 集いのマルシェ

食と文化を囲んで人が集まる

駅，城址本丸，居住エリアの結節点に大きな屋根のかかったオープンな広場を作り，住人も観光客も楽しめる新しいマルシェとする．福井県内各地から農産物・海産物・加工食品が集まり，飯売及びその場で食べられるスペースを設けて，福井の豊かな食の発信の場とする．住人にとっては，近隣で食料品が入手できる住みやすい中心市街地となる．食だけではなく，福井のメーカーやデザイナーのプロダクトのアンテナショップを設け，福井のものづくり文化の発信の場にもなっていく．大屋根建設に先駆けて，社会実験としてマルシェを開催して，マルシェ運営の担い手を育てていく．

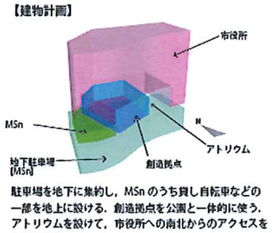
E シビック・ホール



創造と民意の結晶体

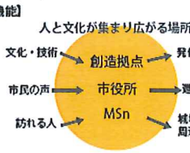
現市庁舎建て替えの際に，市役所，創造拠点，モビリティ・ステーションが複合したシビック・ホールを新設する．中央公園再整備で伴われる堀跡の「歴史のプロムナード」を延長してアトリウムを設け，公園とシビック・ホールを一体的に活用する．１階中央には創造拠点を設け，福井ではこれまであまり盛んではなかったコンテンポラリ・アートを取り込みつつ，参加型プログラムの多い運用とし，公園も積極的に活用する．シビック・ホール新設までは，現化小学校の空教室を使った創造拠点で，運営の担い手を育てる．西側と地下には モビリティ・ステーションを設け，フェニックス通りからの人や車のアクセスを受け止め，移動の拠点とする．市役所は上層を中心に序跨積を確保する．足羽山から天守への景観を確保するために一部が削り取られた建物外観は，不定型な敷地形状とも相まって，結晶体のように見えるだろう．

【建物計画】



駐車場を地下に集約し，MSn のうち貸し自転車などの一部を地上に設ける．創造拠点を公園と一体的に使う．アトリウムを設けて，市役所への南北からのアクセスを容易にする．

【機能】



F モビリティステーション&スタンド

モビリティステーション（MSn）

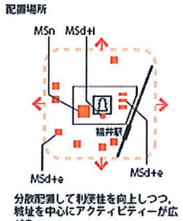
MSn（大規模集約型）

自動車から環境配慮モビリティーに乗り換えるための，駐車スペースに余裕のある大規模ステーション．市役所・創造拠点と一体化されている．

モビリティスタンド（MSd）

新たに大型の MSn を設けるだけでなく，住宅地内のカーシェアリング駐車場を兼ねた MSd や散在している既存の小規模駐車場に数台分の MSd を設置することで，アクセス性と利便性を確保．

配置場所



分散配置して利便性を向上しつつ，城址を中心にアクティビティーが広がる．

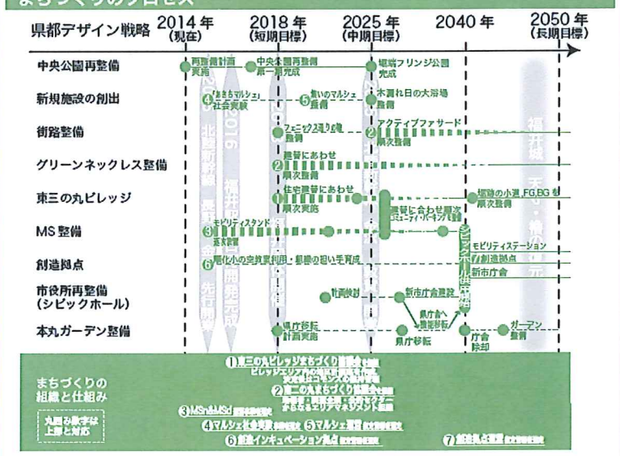
まちなかの交通拠点

福井城址周辺地区を中心市街地内移動の中心に位置づける．福武線や中央大通りのバス停留由で訪れる周辺都市住民，JR 各線で訪れる遠方からの来訪者，フェニックス通り，中央大通り，さくら大通りなどの幹線道路から自動車で訪れる市民などが，MSn & MSd でより小さな交通具に乗り換える．行動範囲に応じて，自転車，シニアカー，超小型パーソナルモビリティなどを活用する．総合的な MSn と比較的小型の MSd があり，MSd は場所によってインフォメーションや電気自動車の充電スタンドを併設したものも設け，まちなかの利便性の高い拠点となっていく．

【交通具と移動範囲】

G 木漏れ日の大浴場

まちのサロンとしての浴場

居住エリアと沿道施設の集積エリアとの間に，入浴施設を設ける．堀端に囲して位置するため，観光客やジョギング愛好者たちにも重宝されるだろう．浴室と脱衣休憩室は中庭に囲しており，夏には木漏れ日のあふれる半屋外風呂が，冬には雪見風呂が楽しめる．浴場スペースだけでなく，ホール空間を広めに取り，住民や観光客に憩いの場を提供する．入浴だけでなく，広間でお茶を飲んだり，囲碁や将棋を楽しむ「まちのサロン」的な空間であったという江戸時代の銭湯や温泉のように，日本ならではの交流の拠点を目指す．

まちづくりのプロセス